

目標と目的

学びポケットに投稿された、一年D組のボディーパーカッションに対するY教諭の情報に興味をそそられました。リード文を読んでから、動画を視聴したところ、リーダーたちの動きや指示、それを受ける仲間の様子が確認できました。完成度だけではなく、取り組みの様子的一端を知ることができました。

Y教諭の指摘したことが、手に取るようにわかりました。無駄のない練習、意識の高いリーダーたち、リーダを信頼して努力するフォロワーたち……確かにすばらしい姿でした。

もう一つ、気付いたことがあります。それは、苦手であろう生徒や気乗りしない生徒がわからなかったということだと思います。言い方を換えれば、一人一人を尊重し、全員の心の向きを同じ方向にそろえることを大切にして取り組んでいる姿が印象的だったということです。感染症の影響で、体育大会や合唱発表会ができなくなりました。これらができなくなったことによる影響は、かなり大きいと私に思っています。運動や歌声を通して、仲間と一つのものを作り上げる体験は大切です。勝利や高い完成度を求めるためではありません。「仲間を理解する」ためです。

運動にしても、歌声にしても、そして、ボディーパーカッションにしても、苦手意識をもってしている生徒はいます。うまくやりたくてもできない生徒もいます。そういう仲間がいることを理解した上で、どのような全員の心の向きをそろえるのか……それを活動を通して学ばなければなりません。「仲間を大切に」とか「全員で作りに上げる」とよく言いますが、その本質を活動の中から学ぶのです。

そのために、生徒の努力は大切ですが、担任の果たす役割も大切です。生徒の前でぐいぐい引っ張っていくだけでは、彼らが「仲間を理解する」ということにはなりません。かといって、生徒と同レベルで臨んでいるのは、担任がいる意味がありません。生徒から距離を置いて「見届け」という名の「放任」をしていては話になりません。だったら、どうすればよいのか……せつかくY教諭が音楽科としてすばらしい情報を与えてくれたのです。そこから自分で考えてください。そして、彼女が絶賛した学級とその担任から学んでください。生徒たちに学び合いが大切だと言っている以上、教師も学び合うべきです。体育大会や合唱発表会ができなくなったことは、教師からも学ぶ機会を奪いました。だからこそ、今はボディーパーカッションの取り組みを通して職員間で学び合ひましょう。

今日は生徒だけではなく、職員をも意識して書きました。ボディーパーカッションは完成度を高めることが目標ですが、その目的は「仲間を理解することだと私は思います。目標と目的の違いを忘ずに取り組みましょう。川の流れにインクを一滴落とすような、色が一瞬で消えてしまうボディーパーカッションにしないようにしてくださいね。

(十二月十六日記)